

海辺の自然体験活動で学んだこと・考えたこと

人間科学部 人間科学科 渡部かなえゼミナール

2022年9月14日、人間科学専門ゼミナールⅠ（渡部かなえ2年生ゼミ）は、海辺の自然体験活動（学外実習）を葉山海岸で行いました。たくさん学びがありました。リフレクション（振り返り学習）で学生が書いた感想文の一部です。

.....

海に行く目的として、今までは海で遊ぶため、海の写真を撮るためなど、自分の娯楽のために海に行くことが多かったが、今回の活動を通して、



自然観察の原則「ロー・インパクト」（生き物や環境に与える影響は最小限に）を守って活動

海で遊び、写真を撮りたいと思うことが出来るのは、海としてのあり方を世界中の人々が認識しているからだと思った。そして、そのあり方をこの先へも持続させるためには、人間を含めた動物の行いで大きく変化すると思った。

今回の活動では、海辺の生き物観察をしてその独自の特徴を知ることができ、また自然ではなく人間が持ってきたゴミから、海を汚しているのが人間だと改めて感じる事ができた。海辺でできる遊びをする機会があれば、環境だけでなく、人間関係や心身の健康などにも繋がると考えた。今までとは違う目的で行く海は、楽しいことから学ぶことが多くて、自分達人間だけの海ではなく、動物、植物などの自然の海でもあるため、この循環があるからこそ、私達が生きていけると思った。森、川、海、そして街ができるこの繋がりを改めて感じたからこそ、今までの過ごし方を見直し、これからの未来を変えていく努力を私達が活動していきたいと思った。とても楽しく新しいことを学べた充実した一日であった。このような活動を自分から進んでやっていきたいと強く思った。

(CH)

本日の活動を振り返ってみて心に残ったことは



海辺の漂着物から SDGs を考える
指導は認定 NPO 法人オーシャン・ファミリー代表、海野義明さん

三つある。一つ目は海に落ちているごみから今の環境問題が一目で分かるということだ。レジ袋の有料化が開始されてから今日の活動をするまで、正直効果を実感することがなかった。なぜなら有料化されただけであり廃止されたのではないからだ。むしろ100円シヨップなどで売られるようになったこともあり、以前と変わっていないのではないかと思っていた。しかし、直接海のごみを見たり、前までは雪のようにレジ袋が散乱してい

たという話を聞いたりして改善されているのだと分かった。反対にプラスチックごみが目立ったのも印象的だった。二つ目は時代によってごみが違うということだ。今のプラスチックごみのようにたばこの吸い殻が多かったときの話を聞いて、問題になるごみの種類も時代によって変わっていくのだと思った。三つ目は人との繋がりにいてだ。「海は一つしかないから、海の良い環境を良くするには人との繋がりが大切だ」という言葉が印象的だった。SDGsの目標にもパートナーシップがあるように、全員が目を向け意識を変えることや世界との繋がりが重要なのだと思った。またこの活動を通して感じたことは、生き物を捕まえたときの罪恶感だ。捕まえた生き物にも仲間がいてもっと広い環境で過ごしているのに、取ってしまうのはかわいそうだと感じた。しかしそれと同時に、この体験や感情が生き物の保全意識や海の環境をより良くしていこうとする姿勢に繋がるのではないかと思った。

(N.A.)



ウニ、カニ、ヤドカリ、エビ、ギンポ、etc.・・・いろいろな生き物に出会えました



海で自然の中で元気になる、元気になって海や自然を元気にする